

最前線レポート

行 所
太洋基礎工業株
たいよう新聞委員会

支 所

四六期下期に向けて

工事件名	区間内地中連続壁工事
工事場所	千葉県市川市地先
発注者	東日本高速道路株式会社
請負者	鹿島・大林・鉄建
特定建設工事共同企業体	関東支社
工種	地中連続壁工 (気泡TRD工法)
造成壁延長	三二八〇・七m
造成壁面積	一五八三五八m ²
壁深度	三七・二m～五三・四m
壁厚	五五〇mm～七〇〇mm
芯材	H三〇〇・B H三五〇・ H四二八・H四四〇・ H五八八

当現場は、東京外環自動車道千葉県区間の整備に伴う工事の中の一つであります。

現場は北・中・南の三工区に分かれています。昨年一二月から乗り込み約七ヶ月が経ち、現在北工区に一台・中工区に五台・南工区に二台の総数八台の造成機にて工事を進めています。

施工面では、各プロックにおいて地質の相違があり原位置土

ドの調整を綿密に計画・調整を

工事は現在約二〇%の進捗状況です。

工事部との連携が最大のポイントと思います。

下期課題の第一に創業以来最大の契約金額となりました外環重要課題です。加えて最終的な原価管理が重要です。消耗材や不足機器の購入等は一通り済んでいますが、比較的原価比率の高い消耗品の耐久性等のデータを採り、最終的な消耗材費の抑制も大切だと思います。又、現場に就く方には一現場八台稼動と過去に無い現場であり、施工ノウハウも通常現場の八倍近い経験を積むことがあります。自分の受持つシステムのみでなく他のシステム動向をも常時情報を入手する事で、施工ノウハウを自分で欲しくないと感じます。

第二に、N・SPC工法の施工力の強化です。外注依存度が高く収益に貢献出来ませんでしょ。今後は、自社保有の機器を使用し且つ、太洋協力会のメンバーでも施工できるようにしたいと考えています。

第三に、液状化対策工法における工種拡大について、耐震補強や液状化対策工法は東日本大震災以降「地震に強い国土造り」が政治的に言われており、ここ二、三年は対策工事の発注が多くあると聞いています。今迄は比較的工費の高い薬液注入工法に専念してきましたが、工費が安価で施工日数が短いドレーン

行い、他工種及び各号機の動きを止めないように重機械配置計画及び他工種の作業内容を盛り込んだ計画図をJV様と協議をして施工を進めております。

鹿島JVの皆様にはTRD工事に関する意見交換、質問、各調整等に私達の意見も取り入れることができました。中工区につきましては、施工延長三〇〇m程度の範囲にTRD機を五台投入したことから施工ヤードの調整を綿密に計画・調整を

します。今まで推奨してきた

層の構成に応じた気泡安定液の注入管理、比重及びフロー管理が求められ、各号機担当者及びJV様との綿密な協議・管理の元、円滑に進めてこられました。

また、連続壁折れ角が九度以下の個所につきましては、遮水性の向上目的としてボスト建込み引抜回数を減らすために曲線施工を行っておりますが、基線管理は基よりカツターボスト先端部での横行位置等も常に管理し、ボストの折れ及びカツターチェーンの脱輪等に細心の管理を行つて施工を進めています。

地中連続壁造成時の流動性確保のためや外気温上昇に対しても問題なく施工を進めるために固化剤を支給して頂き、造成後三時間程度までテーブルフルーチ値を一八〇mm程度確保できるよう管理を行っています。

芯材の建設精度確保についても問題なく施工を進めるためにR D工法や昨年新規参入したN S P C工法に加え液状化対策の薬液注入工法を主軸に徐々に回復してきています。施工中の現場は施工管理を充実させることで、本期の第一目標とする全

現場黒字達成に向かって収益を確保したいと考えています。尚、下期に入つても受注競争は激しく施工単価の低下に歯止めが掛からない傾向は続くと推測されます。各支店では、受注單価を一八〇mm程度確保できることで、本期の第一目標とする全

現場黒字達成に向かって収益を確保したいと考えています。尚、下期に入つても受注競争は激しく施工単価の低下に歯止めが掛からない傾向は続くと推測されます。各支店では、受注

單価を一八〇mm程度確保できることで、本期の第一目標とする全現場黒字達成に向かって収益を確保したいと考えています。尚、下期に入つても受注競争は激しく施工単価の低下に歯止めが掛からない傾向は続くと推測されます。各支店では、受注

單価を一八〇mm程度確保できることで、本期の第一目標とする全現場黒字達成に向かって収益を確保したいと考えています。尚、下期に入つても受注競争は激しく施工単価の低下に歯止めが掛からない傾向は続くと推測されます。各支店では、受注

單価を一八〇mm程度確保できることで、本期の第一目標とする全

現場黒字達成に向かって収益を確保したいと考えています。

最後になりますが、元請会社

難所の一つ、クロマツ近接施

工個所については、孔壁及び土留め部の崩壊対策として施工開

放長を出来る限り少なくし、JV様より補強仮設材を支給して頂いたことによりスムーズに完了することができました。中工

区につきましては、施工延長三

〇〇m程度の範囲にTRD機を五台投入したことから施工ヤードの調整を綿密に計画・調整を

します。現在のところT R D機

八台同時施工で個々の号機毎の特性を活かしながら常に前へと

進めるよう努力していきたいと

思います。

工事は現在約二〇%の進捗状況です。

平成二十四年度 安全大会

四国営業所

日々猛暑の中での業務お疲れ様です。六月二七日、協力会社伸和重量建設(株)の会議室を使用させて頂き、四国営業所の安全大会を開催致しました。

が開会宣言を行い、次に豊住顧問からのメッセージを米村所長が代読しました。

安全は幅の広い、奥の深い課題であり、健康も安全の大重要な要素である、との指摘を頂き、自分の体調を気遣うことは当たり前ですが、他の人の体調や異変を察知し、声を掛け合うことで絆を深め結束し、安全な職場作りをしていくことを学習しました。

福島顧問、協力会社(株)武田土木の武田氏、渡邊副支店長から挨拶を頂きました。

安全講話は、積水ハウス(株)

香川支店技術次長の上田様より、

現場での熱中症発生の現状や対

処・予防方法をレクチャーして頂きました。

最後に米村所長の挨拶で、現

と大変勉強になりました。

これまで四国営業所が安全に業務

できてきたのは協力業者皆様の

おかげと感謝をしていました。

継続は力なりという言葉の通り

これからも職員・協力業者の皆

様と協力をして安全な職場作り

を続けていきたいと思います。

これからも職員・協力業者の皆

様と協力をして安全な職場作り

を続けていきたいと思います。

最初に豊住顧問からのメッセージ

が読み上げられ、渡邊副支店

長、田村営業部長、協力業者を

代表して(株)チューイーの長井

聰司氏の順に挨拶を頂きました。

次に安全講話では、広島市道

路管理課久保田康幸様をお招き

して過去の事故事例を挙げ、安

全作業の留意点、労働災害にお

けるハインリッヒの法則といっ

た話をして頂きました。この講

話を通して職員、協力業者の方

が事故を絶対起こさないと再確

認できた貴重な話であつたと思

います。また、この一年間安全

活動を実践して頂いた(株)チュー

イーの松崎剣氏に表彰状が授与

されました。

常に施工班が危険な作業にな

らないよう適時注意を促すよう

に心掛け、特に一日のスタート

朝のミーティングでは安全作業

を徹底し、家族や職場の仲間を

悲しませないように今後も指導、

努力していきます。

表記理由は、工事始点側の基

礎工が変更されたことから当初

計画していた始点側からの片押

し施工では工期に間に合わなく

なるので、軽量盛土擁壁を終点

側からも施工出来るように仮設

足場の工夫・提案を行い工期短

縮に貢献できたことであります。

また、伊東主任は越美山系砂

防事務所では初めての軽量盛土

擁壁の採用であつたため、事務

所職員様を対象とした勉強会の

講師を務めるなど運営に協力し、

前述した工期短縮の提案や現場

管理が優秀であると認められて

の受賞となりました。

当工事は、急峻な地形で土質

も軟弱な箇所があり品質・工程・

安全管理に大変苦労しましたが、

われたものと深く感謝いたしま

す。

当工事は、急峻な地形で土質</